5月・6月の管理ポイント

平成16年4月25日
株式会社トモグリーン・ケミカル
ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/
第69号

5月は新緑の季節で芝生が最も元気な時期です。
灌漑対策を万全にして、根をしっかり伸ばしておきましょう。
6月の梅雨時期は、日照不足と土壌の酸素不足の対策として、
糖類補給・サッチ層の除去に努めましょう。

プライマーセレクト

梅雨の排水対策には…

５月は芝生の根をしっかり伸ばす大切な時期です!!
グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。
プライマーセレクトによりマトリックスフローを形成した土壌では、表層を乾燥状態にしても、一度の潅水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして頂けます。
散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に充分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。
６月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。
プライマーセレクト処理で余分な水を排水させましょう。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には…

梅雨前の更新作業時に光合成細菌とサッチ・リムーバーを組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。
使用量：1～2ｇ/㎡　0.5L/㎡散布　使用回数：月1～2回

コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には…

梅雨時期は日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。
コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。
使用量：ベント1～2ｇ/㎡　1L/㎡散布　　コウライ3～4ｇ/㎡　1L/㎡散布

ダイアジノンSLゾル・ブイボン乳剤

害虫発生にあわせて…

５月はシバオサゾウムシ、スジキリヨトウ、シバツトガ成虫が活動を開始します。
速効性のブイボン乳剤で防除しましょう。
６月中旬以降はセマダラコガネ、マメコガネ成虫が発生します。
更新作業にあわせてダイアジノンSLゾルを処理し、若令幼虫のステージで防除しましょう。
使用量：ダイアジノンSLゾル 250倍　0.7～1L/㎡、ブイボン乳剤 2000倍 0.3～0.5L/㎡

グリーンメカ・マリンパワー

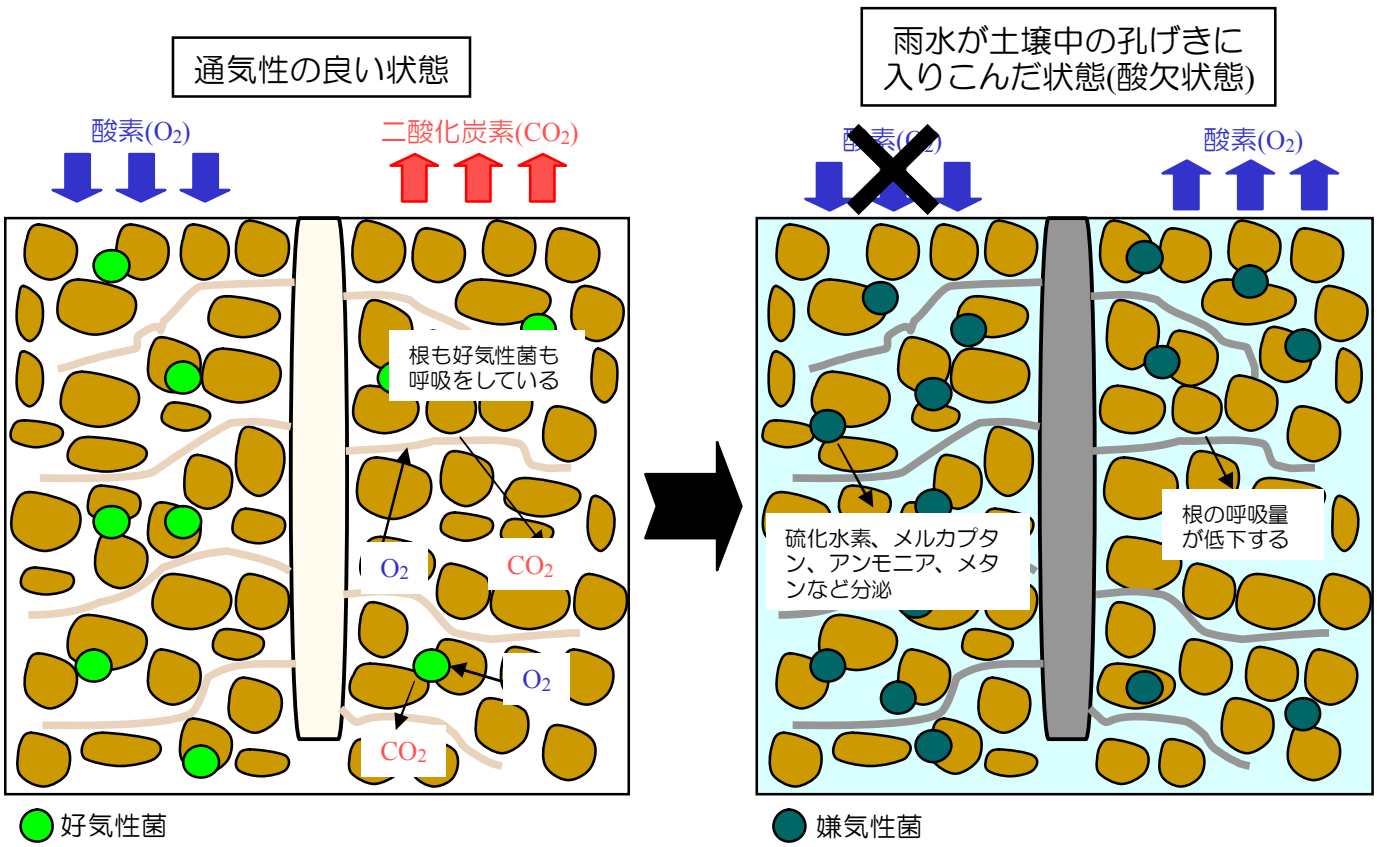
日照不足を補うために、芝生や有用菌のえさとして…

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。
黒糖、各種ミネラルの豊富なグリーンメカで不足しがちな糖類を補ってあげましょう。
光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。
使用量：グリーンメカ 5～10ml/㎡　1L/㎡以上　　マリンパワー 2～4ml/㎡　1L/㎡以上

マメ知識

土壌中が過湿状態になると芝生はどうなるのだろう？

梅雨時期は、よく土壌が過湿状態になると言われていますが、この状態は芝生の生育にどのような影響を与えているのでしょう。



芝生の根の働きは？

土壌中の空隙に雨水が滞水し土壌中の空気を追い出すと、根が呼吸するために必要な酸素が欠乏し、根から吐き出された炭酸ガス(二酸化炭素)が蓄積するため、根の活力が低下する。根の伸長が止まると、根の細胞のリグニン化(木質化)によって硬化し、養分や水分の吸収が悪くなる。

土壌の状態は？

土壌は雨水によって満たされると嫌気状態(空気のない状態)になり、有用菌(バチルス菌、放線菌etc)といわれる好気性菌(空気のある所で生息する細菌)が減少する。

一方、嫌気性菌が増殖し、メタン・アンモニア・硫化水素・メルカプタンといった物質が土壌中を充満する(腐った卵の臭いや、どぶくさい臭いになる)。

最終的には、根腐れを引き起こす原因となる